

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会 おり〜ぶ鈎取		
○保護者評価実施期間	R7年1月15日		R7年3月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	R7年2月13日		R7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	資格だけでなく、幅広い年代のスタッフ(若い世代から人生経験が豊富な方まで)で構成されていることで、利用児自身も色々なかかわりができている。	スタッフ自身が様々な視点や役割を持ち、関わっている。利用者にとって様々な年代のスタッフと関わる経験が拡大に繋がる。	それぞれのかかわりの中でのやり取りや出来事をスタッフ間で共有することにより、共通認識のもと支援にあたるようにする。
2	一軒家で事業を行っているため部屋数があることから、過ごしによって場所をわけられる。	「集団と個人」や「静と動」の活動に合わせた部屋の変更、クールダウン時に落ち着けるような空間を設けられるよう意識している。	全体のスケジュールがある中で、利用児の特性に配慮した取り組みや視覚的に分かりやすい使い方ができるようにする。利用児一人ひとりが過ごしやすいよう、構造化を踏まえた環境整備に取り組む。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物が古くバリアフリー化には至っていない箇所が多い。「清潔にはしていただいていると思いますが、古い建物で夏は暑く冬は寒そう。遊ぶスペースも狭そう。」とのご意見も頂戴している。	古い一軒家で事業を行っており、段差が多い。部屋数はあるが広いスペースはないため、身体を動かしたい方にとっては窮屈に感じることもあると思われる。「夏は暑く、冬は寒い」という状況は否めない。	床に滑り止めを敷いたり、階段の上り下り際にはスタッフが見守るなど人の配置を工夫し安全に過ごせるよう日々対応している。ハード面でのデメリットはあるものの、一軒家の雰囲気や気に入ってくる方もいる。庭や近隣の公園などを活用し、身体を動かせる機会もより設けていきたい。水分補給や補助暖房の活用などにより、体調管理には気を付けたい。
2	地域に開かれた事業運営には至っていない。	コロナ禍であったことも影響し、夏祭りへの協賛や近隣住民の方への挨拶に留まり、積極的に関わる機会は少なかった。買い物や外食の機会も限定的となっている。	建物前のごみ拾いや落ち葉掃きを通して、近隣住民の方と挨拶を交わせる機会は引きつづき作ってきたい。公共施設の利用や買い物、外食など、地域資源を活用したり学齢期の子どもと関わりが持てる機会をどのように作れるか検討したい。